

# 2023年 日本感性工学会各賞表彰

日本感性工学会各賞表彰式が、令和5年11月20日(月)13:00-13:30 第25回日本感性工学会大会中、タワーホール船堀で開催されました。

## 著作賞

感性工学に関連した広い意味での著作に対して授与する。推薦を行う者は本学会会員に限る。被推薦著作物は本学会の会員が主体となって著作したものに限る。本賞が対象とする著作物とはたとえば以下のようなものである。出版物(言語の著作物, 紙の本だけにかぎらない)、舞踊、美術、建築、図形、模型などの著作物、ビデオソフト、ゲームソフト、コマーシャルフィルム、映画のなどの著作物。プログラム(コンピュータソフトウェア)、データベースなどの著作物。広くデジタルコンテンツ。二次的著作物も対象である。

### 著作賞(1件)

感性研究から見た政治

伊藤信太郎 著

著作物の種類: 言語の著作物でいう論文、レポート、作文、出版物、および講演資料など

以上

日本感性工学会 著作賞選考委員会

委員長: 布川博士(岩手県立大学)

委員: 大谷 毅(信州大学)

柏崎尚也(東京電機大学)

上條正義(信州大学)

庄司裕子(中央大学)

高寺政行(信州大学)

山中敏正(筑波大学)

## 論文賞・技術研究賞・事例研究賞

- 論文賞 原則として前年1月より12月までの「International Journal of Affective Engineering」または「日本感性工学会論文誌」に掲載の Original Articles の中で、創意があり学術的に高い価値を有すると認められたもの。
- 技術研究賞 原則として前年1月より12月までの「International Journal of Affective Engineering」または「日本感性工学会論文誌」に掲載の Original Articles の中で、創意があり技術的に高い価値を有すると認められたもの。
- 事例研究賞 原則として前年1月より12月までの「International Journal of Affective Engineering」または「日本感性工学会論文誌」に掲載の Original Articles の中で、創意があり事例研究として高い価値を有すると認められたもの。

## 論文賞(2件)

Linking the Kansei Food Model to the General Affective Engineering Model  
– An Application on Chocolate Toffee Fillings –  
Simon SCHÜTTE 1 and Lluís MARCO-ALMAGRO 2  
1 Linköping University, 2 Universitat Politecnica de Catalunya  
International Journal of Affective Engineering, 2022 Volume 21 Issue 3 pp. 219–227

顔パレイドリア現象の強度が脳活動に及ぼす影響  
小林優吾, 谷山祐真, 中内茂樹, 南哲人  
豊橋技術科学大学  
日本感性工学会論文誌 2022年 21巻 1号 pp. 33–39

## 技術研究賞(1件)

脳血流量の時間変動と局在特性を考慮した特徴量とノイズ除去手法の提案  
– 色彩環境下での知的作業課題判別 –  
浜田百合, 栗原陽介  
青山学院大学  
日本感性工学会論文誌 2022年 21巻 2号 pp. 239–245

## 事例研究賞(1件)

脳血流と心拍による運転者の「わくわく感」と「不快緊張感」の検出可能性  
– ドライブシミュレータを用いた実験的検討 –  
平松昂也, 山本恒行  
株式会社東海理化  
日本感性工学会論文誌 2022年 21巻 2号 pp. 247–256

以上

日本感性工学会各賞(論文賞、技術研究賞、事例研究賞)検討委員会  
委員長: 高寺政行(信州大学)  
委員: 石原茂和(広島国際大学)  
大倉典子(中央大学/芝浦工業大学)  
荻野晃大(京都産業大学)  
尾崎 繁 (目白大学)  
加藤健郎(慶応義塾大学)  
福本 誠 (福岡工業大学)  
柳澤秀吉(東京大学)

---

## かわいい感性デザイン賞

“かわいい”という感性価値はファッション等をはじめとしたマーケティング効果にも影響を及ぼし、その範囲は拡大する傾向にある。このような社会的背景に 대응するために、優れたかわいいプロダクトを表彰して世に知らしめることは、感性工学研究の裾野の広さの実証と涵養を高めるためにも必要なことと思われる。このような背景のもとに、日本感性工学会は、その社会的役割の一環として、「かわいい感性デザイン賞」を創設した。

## 最優秀賞(1件)

子ども型見守り介護ロボット HANAMOFLOR(ハナモフロル)  
袖山慶直(ソニーグループ株式会社)

## 優秀賞(2件)

エノツツフロアチェア

橋田規子(芝浦工業大学デザイン工学科)

BasePairPuzzle

近藤次郎(上智大学 理工学部 物質生命理工学科)、中村昇太(株式会社 StudioMIDAS)

## 企画賞(1件)

Inclusive Quiet Room -共生社会を目指して-

木村正子(名古屋工業大学/ 青山学院大学)、北川啓介(名古屋工業大学 大学院工学研究科)、北川珠美(名古屋工業大学 北川啓介研究室)、夏目欣昇(名古屋工業大学 大学院工学研究科)、株式会社 LIFULL ArchiTech

以上

かわいい感性デザイン賞審査委員会

委員長:大倉典子(芝浦工業大学)

委員:大谷 毅(信州大学)

柏崎尚也(東京電機大学)

川中美津子(相愛大学)

庄司裕子(中央大学)

乗立雄輝(東京大学)

---

## 感謝状

宮武恵子(共立女子大学)

古川貴雄(共立女子大学)

高寺政行(信州大学)

上條正義(信州大学)

---

## 優秀発表賞

優秀発表賞は大会での発表の中から優秀な発表を行った若手会員を奨励するものである。

### 第24回日本感性工学会大会(7件)

2022年8月31日(水)~9月2日(金)に、オンライン開催された第24回日本感性工学会大会の優秀発表賞は、予稿原稿による事前審査、および、口頭発表による当日審査の結果に従って、9月5日の優秀発表賞選考委員会において慎重に協議した結果、下記の7件に決定した。

弘中 明日香(立命館大学大学院)

動的視野制限法を用いたVR環境における自動車運転時の有効視空間特定とVR酔いの検討

大始良 義将 (川崎医療福祉大学)  
概念モデルを用いて心理量と感覚量を同時に表現できるデジタル評価ツールの開発

橋本 佳穂里 (株式会社明治)  
噛み応えの異なるグミがもつ感性価値の探索

召田 優子 (長野工業高等専門学校)  
現実世界の手指動作を用いた布モデル操作システムによる衣服モデルの試作に関する研究

佐野 貴紀 (慶應義塾大学)  
機械学習手法を用いた肖像画の魅力と美しさ評価における個人特性の検討

萩原 樹 (信州大学)  
「どうぞ」を伝える自動車用照明の発光パターンの検討

設楽 稔那子 (花王株式会社)  
化粧品容器扱い時の所作への意識づけが使用者のスキンケア意識及び行為に与える影響

以上

第 24 回日本感性工学会大会優秀発表賞選考委員会  
選考委員長:宮武恵子 (共立女子大学)  
選考委員:古川貴雄 (共立女子大学)  
堀場洋輔 (信州大学)  
金 昶屋 (信州大学)  
金井 博幸 (信州大学)  
菅原 徹 (早稲田大学)

## 第 18 回日本感性工学会春季大会(7 件)

2023 年 3 月 6 日(月)~7 日(火)に、オンライン開催された第 18 回日本感性工学会春季大会の優秀発表賞は、予稿原稿による事前審査、および、口頭発表による当日審査の結果に従って、3 月 13 日の優秀発表賞選考委員会において慎重に協議した結果、下記の 7 件に決定した。

加藤 拓巳 (明治大学)  
東西南北が商品・サービスの魅力に与える影響  
—原産国の四方位への拡張—

松田 創 (早稲田大学)  
Noisy Color Phenomenon の生起メカニズムに関する定量的心理モデルの構築  
—正方形カラーパッチを刺激とした印象評価実験の分析—

佐野 貴紀 (慶應義塾大学)  
幾何学的形態測定法と深層学習手法の統合による顔魅力特徴の探求

池島 俊季 (ポーラ化成工業株式会社)  
聴覚刺激が心理状態を介してスキンケア製品の触感に与える影響

榎戸 菜美 (信州大学)  
音楽・振動・照明刺激を用いた多感覚刺激呈示によるリラックス亢進効果

坂口 歳斗 (株式会社資生堂 みらい開発研究所)  
化粧品容器の表面物理特性が容器触感印象に及ぼす影響

Vithor Hugo Costa da Silva (筑波大学) University of Tsukuba  
Does the shape of the UGV Robot matters for perceived safety?  
— A Study on the Effect of Slant Shape of UGV Robots —

以上

第 18 回日本感性工学会春季大会優秀発表賞選考委員会  
選考委員長: 庄司裕子(中央大学)  
選考委員: 高寺政行(信州大学)  
上條正義(信州大学)

---

※優秀発表賞は、予稿の書き方や研究の目的設定や、発表の方法や質疑等が優れており、また研究の今後の進展に期待できる若手研究者を顕彰するものである。したがって、本賞は発表内容の正しさを必ずしも保証しているのではない。

受賞対象は学会会員